

東京新聞

中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211



新国立 第三者委聴取録本紙入手

首相演説 撤回の足かせ

多くの担当者が計画に疑問を抱きつつ止められなかった。二〇二〇年東京五輪・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場の旧建設計画で、文部科学省や日本スポーツ振興センター(JSC)は、工費がかさむとされたザハ・ハテイド氏のデザインにこだわり白紙撤回に追い込まれた。安倍晋三首相のスピーチがきっかけで後戻りにくくなったことが、本紙が入手した文科省第三者委員会の聴取録で浮かび上がった。

「どんな競技場とも似ていない真新しいスタジアムから財政措置まで、二〇年東京大会は確実に実行されます」アルセンチン・プエノシアレスで二三年九月に開かれた国際オリンピック委員会(IOC)総会。安倍首相は英語のプレゼンテーションで招致を訴えた。巨大アーチが屋根を支える斬新なハテイド氏のイメージ図も紹介された。JSCは当初千三百億円の工費を見込んだが、ハテイド氏案を試算すると三千億円超に。IOC総会の一カ月前、文科省に報告した。二週間余り前には、工費削減を検討するため、千二百億〜二千四百億円程度の七案も伝えた。聴取録からは担当者の危機感が伝わる。設計会社は「思い切ったことをやらないとだめ」、JSCは「二位案への変更は考えないのかと文科省だが招致決定後、総会での首相の「公約」に縛られる。JSCの河野一郎理事長(当時)は、首相のプレゼンで「ハテイド案をベースに置くことは決まったと思う」と振り返る。別のJSC幹部も「周りの雰囲気は変わっていた」と話した。その後、工費がかかることされたアーチなどには手を付けず、机上の試算が繰り返された。聴取録からは、硬直化した官僚組織もかいま見える。今月下旬に新計画の設計・施工業者が決まるのを前に、特集面で「先送りの内幕」を検証した。

先送りの内幕

詳細⑫面



2013年9月、プエノシアレスでのIOC総会で東京への五輪招致を訴える安倍晋三首相(右上)、ザハ・ハテイド氏の当初デザイン(下)、第三者委員会の聴取録(左上)

第三者委員会 新国立競技場の建設計画が白紙撤回された経緯を検証するため、文部科学省が8月4日に設置。委員長の柏木昇東京大名誉教授や弁護士、元陸上選手ら6人が関係者約30人から聴取し、9月24日の報告書で「国家プロジェクトに対応できる組織体制になっていなかった」などと指摘した。下村博文文科相(当時)や河野一郎JSC理事長(同)らの責任にも言及した。